

## ▼リトゴビ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 フチバチニブ Futibatinib 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [FGFR 阻害剤]

【単位】 ▼4mg/錠

【常用量】 20mg/日 ●適宜減量 20→16→12mg

【用法】 1日1回空腹時 [食事の1時間前から食後2時間までの間の服用を避ける]

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1) AKI は重要な潜在的リスク (1)

【特徴】 がん化学療法後に増悪した FGFR2 融合遺伝子陽性の治癒切除不能胆道癌に適用される経口の線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR; Fibroblast Growth Factor Receptor) 阻害剤。FGFR のチロシンキナーゼ活性を不可逆的に阻害し、FGFR 融合タンパク等のリン酸化を阻害して下流のシグナル伝達分子のリン酸化を阻害することにより腫瘍増殖抑制作用を示す。

【主な副作用・毒性】 網膜剥離、高リン血症、脱毛、口内乾燥、味覚異常、爪の異常、筋肉痛、末梢性ニューロパチー、浮動性めまい、消化器症状など

【安全性に関する情報】 網膜剥離—眼科 follow (1) QT 延長に関与しない (Yamamiya I, et al: Clin Pharmacol Drug Dev 2023 PMID: 36404525)

【吸収】 食事により吸収低下 (1) PPI の影響は受けない (Yamamiya I, et al: Clin Pharmacol Drug Dev 2023 PMID: 36382853)

【F】

【tmax】 1~2hr (1)

【代謝】 CYP3A で代謝 (1) 血中では未変化体として 59%、ステイニルグリニン抱合体として 13%存在し、O 脱メチル化とグルタチオン抱合により代謝 (Yamamiya I, et al: Clin Pharmacol Drug Dev 2023 PMID: 37300358) アクリルアミドが代謝されてエポキシド中間体となり、CYP3A4 と共有結合して不活性化する (Tang LWT, et al: Drug Metab Dispos 2022 PMID: 35512804)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 0%、尿中回収率 6.47% (1)

【CL/F】 21.2 L/hr (1)

【t1/2】 2.3hr (Yamamiya I, et al: Clin Pharmacol Drug Dev 2023 PMID: 37300358) 2.18hr (1)

【蛋白結合率】 95% (1)

【Vd】 Vd/F=66.0 L/body, Vp/F=16.4 L/body (1)

【MW】 418.45

【透析性】 除去されない

【OW 係数】 2020 [1-オクタノール/buffer, pH 7] (1)

【相互作用】 P-gp, BCRP を阻害 (1) CYP1A2 を誘導 (1) CYP3A 阻害剤, 誘導剤, P-gp や BCRP の基質との相互作用あり (1)

【肝障害患者への投与方法】 中等度肝障害までは常用量 (Gao L, et al: Clin Transl Sci 2023 PMID: 37553804)

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20240921

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。